

平成28年度(平成28年4月～平成29年3月)再資源化預託金等の運用の実績

1. 平成28年度の入出金及び運用可能額

入金及び繰越金 1,779億円			
預託金 新車購入時523億円 引取時 3億円 (合計) 527億円	運用収入 100億円	債券満期償還金 894億円	前期からの繰越等 258億円 *1
出金及び繰越金 538億円		運用可能額 1,241億円	
メーカー等 への払渡 336億円	輸出返還 171億円	当年度 流動性確保額 30億円 *2	
他会計への 繰入金 2億円		国債 887億円	政府保証債 321億円
		次期繰越額等 33億円	

\*1 前期からの繰越等258億円のうち、債券未取得額228億円は、日本銀行による金融緩和策の影響から、取得対象の国債の利回りがマイナスとなり、平成28年2月及び3月は国債の取得を行わなかったことによる。

\*2 突発的な預託金の出金の増加に対応するため、輸出返還金額(15億円/月)の2ヶ月分を流動性確保額とした。

2. 平成28年度の再資源化預託金等債券運用実績

自動車の平均使用年数(約15年)を考慮した各年限の必要残高に応じたラダー型資産構成を完成させるため、1,241億円のうち1,208億円を年限10年から18年の債券取得に充てた。

	平成28年度				合計
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
運用可能額	485	245	352	276	1,241 *3
債券取得額	436	211	316	245	1,208
国債	340	145	232	170	887
政府保証債	97	66	84	75	321
次期繰越額等	49	34	36	31	

\*3 各四半期の運用可能額の合計には次期繰越額等の分が重複するため、年度の運用可能額の合計とは一致しない。

3. 平成28年度末におけるラダー型資産構成実績

平成28年度から、自動車の平均使用年数を考慮して、各年限の必要残高を額面600億円程度とするラダー型運用に変更した。平成28年度末時点における当該ラダー型資産構成は、構築の途上にある。

年限 (年度末基準)	1未満	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	合計
償還年度	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	
額面残高 (億円)	0	893	892	891	890	890	891	895	884	783	600	82	122	9	150	-	100	-	14	8,986

各年限の取得額の上限を600億円程度とするラダー型資産構成の構築を目指す

※1 四捨五入の関係で合計が合わない場合があります。

※2 詳細は第75回(平成29年6月9日開催)の資金管理業務諮問委員会資料「資料4-1」をご参照ください。